



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

開校60周年記念式典式辞

本日、練馬区立旭町小学校開校六十周年記念式典を行うにあたり、練馬区議会副議長 酒井 妙子様、練馬区教育委員会教育長 河口 浩様をはじめ、練馬区ならびに練馬区教育委員会から、大勢のご来賓の皆様、地域・PTAの皆様 および本校と関係の深い皆様方のご臨席をいただきましたことは、本校にとりまして大きな喜びであります。高い席からではございますが、心から感謝申し上げます。

旭町小学校は昭和三十二年四月一日に、練馬区内第二十六番目の小学校として開校いたしました。以来六十年、五千六十三名もの卒業生が巣立ち、現在は三百七名の児童が楽しく学んでいます。五十周年の時の卒業生数が四千三百八十七名でしたので、この十年間だけでも六百七十六名の方が卒業しています。こういったことは、ひとえに本校の充実・発展のためにご尽力くださいました練馬区並びに練馬区教育委員会、保護者、地域の皆様をはじめ、学校に関わる歴代職員や卒業生の皆様の努力の賜であります。また、この開校六十周年の記念行事を行うために皆様より心のこもったお力添えをいただいております。重ねて深く感謝し、御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、児童の皆さん、今日は学校が誕生して六十年を迎えたことをお祝いする日です。昭和三十年代のはじめ、その当時は、まだコンクリートやアスファルトで舗装されていない道を、雨の日、風の日、雪の日、暑い日、とても大変な思いをして、お隣の豊溪小学校まで通っていたのを、分校を経て、昭和三十二年、地域の大切な学校として旭町小学校は誕生したのです。

先日の九月九日、六十周年をお祝いする児童集会をバースデー集会として行い、色とりどりの風船が、真っ青な空に高く高く、南東の方に飛んでいきました。その上がっていく風船をしばらく皆で眺めていました。とてもきれいでしたね。早くその風船に気がついて下さった方からお手紙をいただきました。千葉県佐倉市にお住まいの六十四歳の方です。そのお手紙には、「私は九月で六十四歳になりました。旭町小学校も同じような歴史ですね。降ってきたプレゼントと思いお礼状を書きました。」と書いて下さいました。実は、私も飛んでいく風船を眺めながら、六十年という時の長さ、この学校の歴史はどのようなものだったのだろうかと考えていました。私事になりますが、ちょうどそのバースデー集会で先生方がサプライズで、私も学校も同じ六十歳だということを発表してくれた後でしたので、小学生だった頃の周りの風景、中・高生だった頃、大学生や就職した頃の社会情勢などが走馬燈のように思い出されました。その思い出と旭町小学校の歴史が重なるのだと思うと不思議な気持ちでした。私が生まれた頃には、おそらく子供の数も増え、それぞれの地域で私たちの学校を作ろうという気運が盛り上がっていた時代だったこと、そしてそのようにして建てられた学校を誇りとし、大事に育てていったことが容易に想像できるのです。

私は、みなさんが「どの学校ですか。」と尋ねられた時に、「旭町小学校です。」と誇らしく答えてほしいと思っています。「学校はどこですか。」と尋ねられたとき、「あの丘の上ですよ。」と誇らしげに答えた君たちの先輩と同じように、旭町小学校を誇りとし、愛してほしいと思います。それがこれまで旭町小学校のために、さまざまにご尽力いただいた方への感謝であると考えます。

今日の六十周年を祝うために、みなさんも、先生方や職員の人たちも、一生懸命準備をしてきました。集会や式の練習をし、学校をきれいにし、大勢の方々をお迎えして、いっしょにお祝いする準備を整えてきました。しかし準備を整えてきたのは学校だけではありません。皆さんのお家の方々や地域の皆さんが、力を合わせて開校六十周年をお祝いするために力を尽くして下さいました。バザーや模擬店など楽しいイベントがあったアニバーサリーフェスティバルがそのひとつです。またここにある真新しい校旗も、皆さんの学校のために思うPTA・地域の皆さんの熱い思いなのです。そしてこんどは皆さんが大人になったとき、皆さんが旭町小学校を自分のかけがえのない母校として誇りに思い、この旭町というふるさとのために尽くしてほしいと願っています。

最後に、ご臨席いただきました練馬区ならびに練馬区教育委員会の皆様、地域・保護者の皆様、そして関係するすべての方々に、今後とも旭町小学校への温かいご支援をお願いして、式辞と致します。

平成二十九年九月十六日

練馬区立旭町小学校長 道山正史